

{ 2018年7月登録決定 }



世界文化遺産

長崎と天草地方の
潜伏キリシタン関連遺産

9

かしらがしま しゅうらく

頭ヶ島の集落

Villages on Kashiragashima Island

ガイドマップ

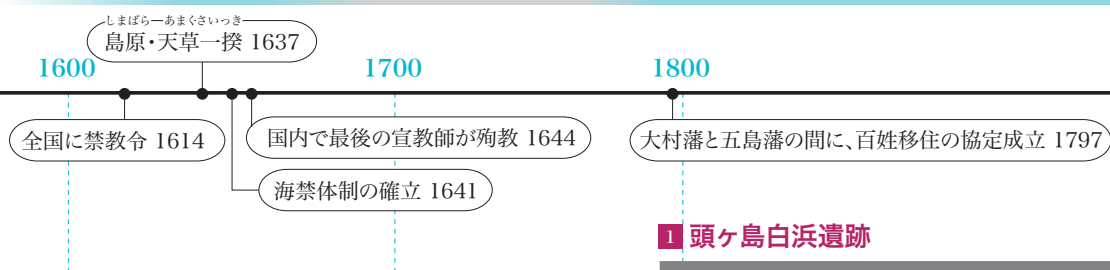


| 頭ヶ島の集落 | の価値

I 宣教師不在と キリシタン「潜伏」のきっかけ

II 潜伏キリシタンが信仰を 実践するための試み

III 潜伏キリシタンが共同体を 維持するための試み



「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」全体の価値における位置づけ

◎「かしらがしま しゅうらく頭ヶ島の集落」は、潜伏キリシタンが信仰の共同体を維持するに当たり、どのような場所を移住先として選んだのかを示す4つの集落の一つです。

◎病人の療養地として使われていた島に開拓移住することによって共同体を維持した集落です。

《基本情報》

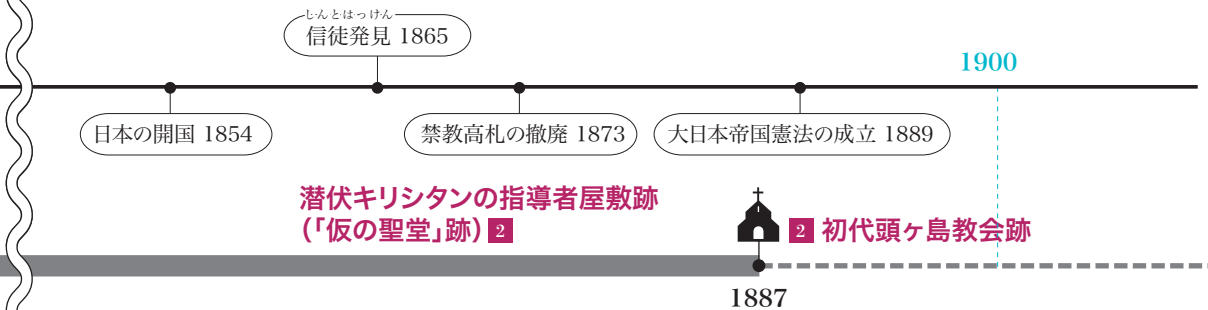
文化財の名称	頭ヶ島天主堂	新上五島町崎浦の五島石集落景観
種別	重要文化財	重要文化的景観
指定年	2001年 2003年(追加指定)	2012年
所在地	南松浦郡新上五島町	南松浦郡新上五島町

資産内の 見学マナー

資産内では生活が営まれています。住民のプライバシーを考え、マナーを守って散策してください。

- ゴミ箱を設置しておりませんので、ゴミはお持ち帰りください。
- 道路を歩く場合は、広がらず、必ず路側帯を歩いてください。
- 喫煙は所定の場所をお願いします。歩きながらの喫煙やたばこのポイ捨てなどはお止めください。
- 個人の敷地や田畑に入ったり、家の中を覗いたり、無断で戸を開けたりするのは絶対にお止めください。
- トイレは所定の場所をお願いします。

IV 宣教師との接触による 転機と「潜伏」の終わり



歴 史

◎頭ヶ島は、縄文時代には人が海岸を使っていたことが発掘調査から判明していますが、その後は長く無人島でした。

◎19世紀になると、病人が療養する場所として利用されたことが文献に記されています。

◎実際の発掘調査によって、白浜地区の海岸砂丘の墓地から、これらの人々の墓が複数発見されています¹。

◎19世紀半ば、このような人が近づきにくい場所であった頭ヶ島に、開拓を目的として前田儀太夫^{まえだぎだゆう}が移住し、福浦地区^{ふくaura}に居住しました。

◎儀太夫は、開拓民を募って島外から数家族を移住させたが、これらは外海地域^{そとめ}から五島方面に移住してきた潜伏キリシタンでした。

◎これらの潜伏キリシタンは、仏教徒である前田儀太夫と行動を共にすることで表向きは仏教を装いつつ、病人の療養地として人の近づきにくい頭ヶ島を移住先として選ぶことによって、自分たちの共同体を維持しようとしたのです。

◎潜伏キリシタンは、北海岸^{しらほま}に白浜地区、南海岸^{たじり}に田尻地区などを形成し、石積み技術を駆使した耕作地でイモ作を主体とする農業を営みました。

◎頭ヶ島の潜伏キリシタンは、閉ざされた環境下でひそかに信仰を続けました。「信徒発見^{しんとはっけん}」後に大浦天主堂^{おおうらてんしゅどう}の宣教師とひそかに接触してカトリックへ復帰しました。

◎さらに、上五島の潜伏キリシタンのリーダーであったドミンゴ松次郎^{まつじろう}が白浜集落に移住し、居を構えて「仮の聖堂^{かりせいどう}」としました²。

◎1887年、「仮の聖堂」の近くに初代の木造教会堂が建てられました²。

◎1905年には海岸近くにカトリックの墓地を整備し祝別され、1919年には、現在の石造教会堂の建て替えが完成しました。

| 頭ヶ島の集落 | の広域マップ



アクセス上の注意事項

■「頭ヶ島の集落」の環境を保全し、来訪者の安全を確保するため、頭ヶ島天主堂のある白浜地区へは上五島空港でシャトルバスに乗り換えてからご入場ください。ご理解ご協力をお願いします。

集落 潜伏キリシタン地区

前田儀太夫の墓は、私有地であるため、場所を示す事は控えるとともに非公開とさせていただきます。

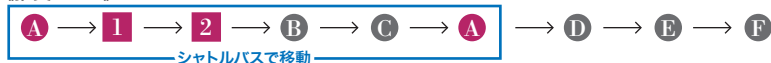


| 頭ヶ島の集落 | の拡大マップ

■ 白浜地区



《推奨ルート》



..... 構成資産範囲	A 情報発信拠点施設	ガイド・案内所	集落	墓地跡、墓碑跡
----- 徒歩で移動	A その他のポイント	休憩所	島	関連の建物跡
——— 徒歩または自動車等で移動	P 駐車場	展示	ビューポイント	教会堂
—— シャトルバス	トイレ	ショップ	墓地、墓碑	教会堂跡
0 重要ポイント				

頭ヶ島の集落 | の重要ポイント案内

しらしまちく 白浜地区



頭ヶ島は19世紀中頃まで無人島でしたが、その前後の時代には、他の地域から運ばれてきた病人の療養地として利用されていました。その後、19世紀中頃から仏教徒の開拓指導者のもと移住してきた潜伏キリシタンと共同で開拓され、禁教期の中、潜伏キリシタンとしてひそかに信仰を継承しました。



1

かしらがしましらはいせき 頭ヶ島白浜遺跡



白浜集落の発掘写真(1995)



白浜集落の発掘写真(1995)

1877年頃の公図には、浜全体が墓域であることが表されていましたが、1995年の発掘調査で禁教期の人骨45体が出土しました。埋葬されていたのは、他の地域から運ばれた病人と考えられます。中にはキリシタン特有の伸展葬も含まれることから、潜伏キリシタンもこの付近に埋葬されたと見られます。解禁後は現在のカトリック共同墓地へ移行していきました。

2

せんぶく

しどうしゃやしきあと

かり

せいどうあと

潜伏キリシタンの指導者屋敷跡（「仮の聖堂」跡）

初代頭ヶ島教会堂跡



①

「仮の聖堂」跡を示す石碑

上五島地域の潜伏キリシタンの中心的指導者であったドミンゴ松次郎は、1867年に頭ヶ島に移住し、この場所に屋敷を構え、伝道所や「仮の聖堂」の役割をしていました。1887年には、この付近に木造の初代教会堂が建てられましたが、やがて老朽化すると近傍から産出される砂岩を用いて現在の教会堂の建設が始まりました。



田尻地区

※私有地には立ち入らないでください。



①

石積みを伴う耕作地

潜伏キリシタンは、急斜面を開拓して、イモ作（サツマイモ）主体の農業を営みました。彼らにより、移住元である外海地域の耕作技術や石積み文化が頭ヶ島に伝えられました。田尻地区では、現在でも禁教期以来の土地利用が見られ、石段のほか、石を積み上げた壁を持つ小屋などが残されています。

ふくうらちく
福浦地区



福浦地区は、開拓指導者の前田儀太夫が入植した場所です。頭ヶ島が病人の療養地であるとして移住を希望する者がいない中、儀太夫は鯛ノ浦地区の住人に声をかけました。彼らは、潜伏キリシタンであり、仏教徒の儀太夫と行動を共にすることで、自分たちの信仰を隠すことができました。

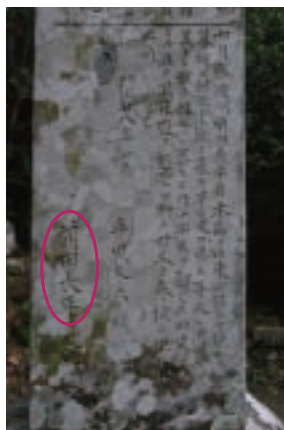
まえだぎだゆう はか
前田儀太夫の墓



※私有地ですので、立ち入らないでください。

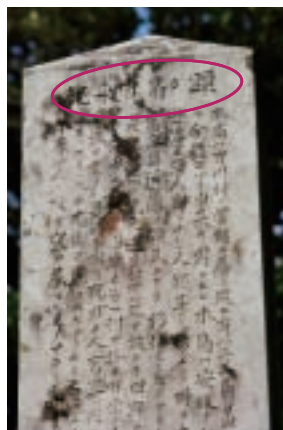


①



①

前田長平の名が刻まれた墓碑



①

「頭ヶ島由来記」が刻まれた墓碑

儀太夫の墓碑には、開拓の経緯が「頭ヶ島由来記」として刻まれています。中央が儀太夫、右が息子、左が孫の墓です。孫は改宗したのでカトリック様式の墓となっており、これら3基のあり方は、頭ヶ島における仏教徒とキリシタンの関係性を示すものとして重要です。

| 頭ヶ島の集落 | のその他のポイント案内

A 世界遺産頭ヶ島の集落インフォメーションセンター

かしらがしま



パネルや映像、パンフレットなどで世界遺産としての価値の理解に必要な情報を提供しています。

- 所在地／南松浦郡新上五島町友住郷744(上五島空港内) Tel:0959-42-8118
- 営業時間／9:00～18:00
- 入場料金／無料

B 頭ヶ島天主堂

かしらがしまてんしゅどう



①



②

現教会堂は鉄川與助の設計・施工で、1910年に始まり、乏しい建設資金のため近傍の砂岩を利用し、1919年に完成しました。外観は表面が粗い切石を積んだルスティカという手法で力強く男性的です。内観は花模様を多用した柔らかで女性的な空間で外観と対照的です。折上天井を二重の持送で支えた天井は柱が無いいため以外に高く、広く感じます。

教会堂の見学マナー

教会堂は大切な祈りの場ですので、見学マナーを守り、厳粛な雰囲気の中で心静かに過ごしてください。

- 堂内では帽子を脱ぎ、静かに拝観してください。
- 堂内にある物にはふれないでください。
- 柵内、内陣(祭壇域)には入らないでください。
- 堂内での飲食、飲酒、喫煙は厳禁です。
- 堂内の写真撮影は禁止です。
- 教会行事(ミサや冠婚葬祭など)が行われているときは入堂をご遠慮ください。
- 教会堂見学に対する感謝の気持ちは、教会堂保存のための寄付として設置してある献金箱をお願いします。



| 頭ヶ島の集落 | のその他のポイント案内

しら は ま ち く C 白浜地区ビューポイント①



白浜地区を一望できます。また、ロクロ島を間近に見ることができます。

しら は ま ち く D 白浜地区ビューポイント②



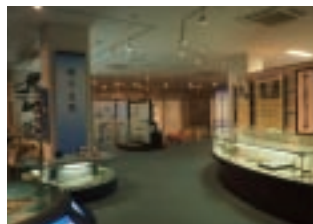
白浜地区とロクロ島が一望できます。

かしらがしま E 頭ヶ島ビューポイント



頭ヶ島大橋と頭ヶ島が一望できます。

げいひんかん F 鯨賓館ミュージアム



捕鯨や上五島の教会などを紹介した有料の展示コーナーや特産品の販売コーナーなどがあります。その他にパンフレットやパネルなどで世界遺産としての価値の理解に必要な情報を提供しています

- 所在地 / 南松浦郡新上五島町有川郷578-36 Tel:0959-42-0180
- 開館時間 / 9:00~17:00
- 休館日 / 12月29日~1月3日
- 入場料金 / 200円。有料展示コーナー以外は無料

カトリック共同墓地^{きょうどうぼち}



カトリック復帰後に整備された共同墓地です。お墓の中には、禁教期を乗り越えてカトリックに復帰した潜伏キリシタンの墓碑も確認できています。

※敷地内には立ち入らないでください。

ロクロ島^{しま}



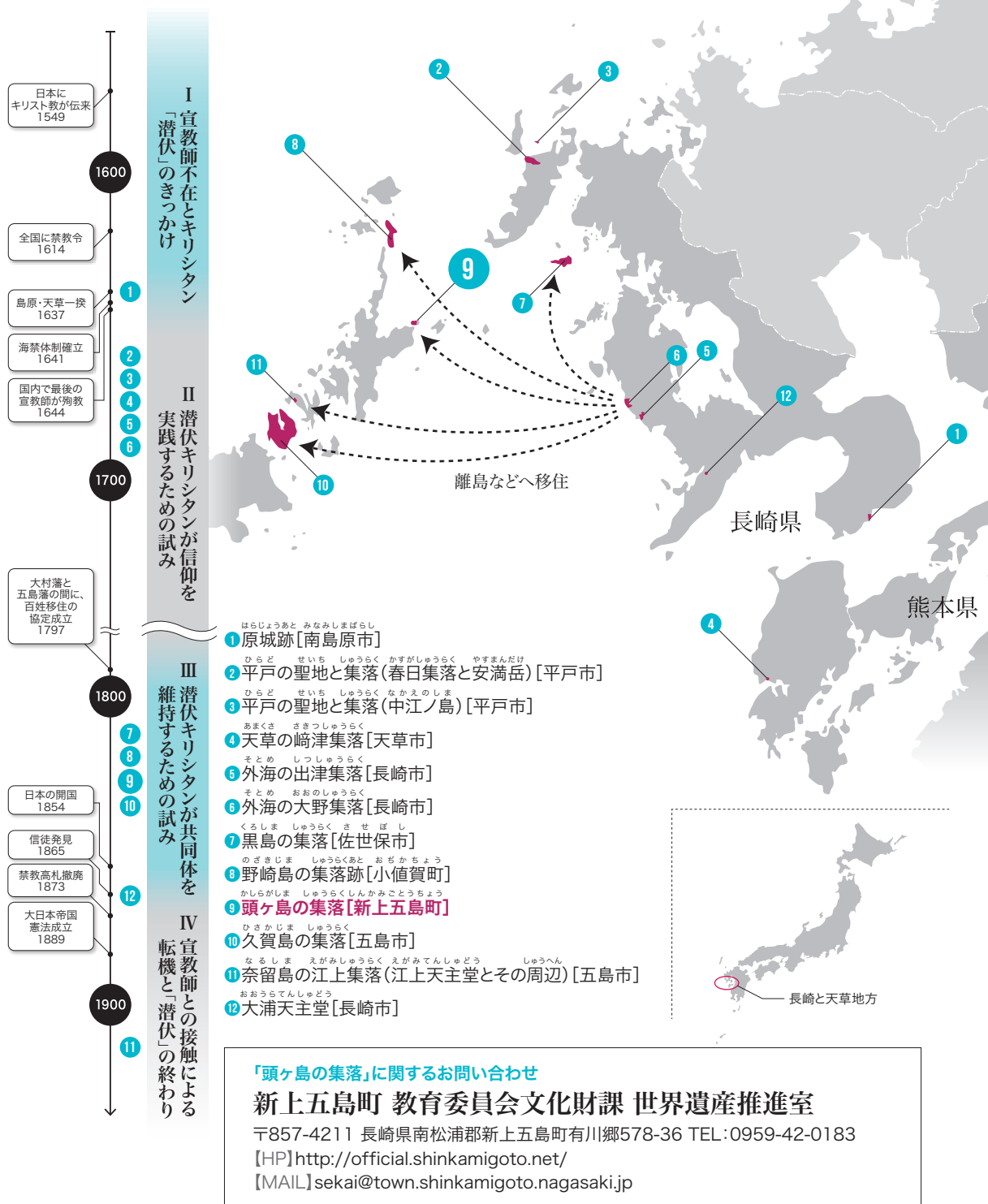
①

頭ヶ島天主堂の建設に用いられた石を切り出した島です。島には当時の石切場が今も残っています。ロクロ島には人が住んだ歴史はありませんが、幕末期から昭和の中頃まで五島石という名称の砂岩を採石していました。五島石は主に石畳用の敷石として平戸や長崎などに数多く出荷されていました。

※ビューポイントからご覧ください。



※イラストはイメージです。



企画・発行／長崎県、熊本県、長崎市、佐世保市、平戸市、五島市、南島原市、小値賀町、新上五島町、天草市

潜伏キリシタン遺産 検索 <http://kirishitan.jp>

撮影協力／①池田 勉、②日暮 雄一

2018年7月発行



国際連合教育科学文化機関



長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産
世界遺産登録年:2018年